

**首都高速道路株式会社  
第15期（令和2年3月期）  
決算説明会**

**2020年6月12日**

# 連結決算の概要

(単位：億円)

	R2/3期	H31/3期	増減
営業収益	5,346	3,862	1,484
営業費用	5,327	3,823	1,504
営業利益	18	38	△19
経常利益	19	42	△22
特別利益	—	3	△3
税引前利益	18	44	△26
法人税等	18	15	3
親会社株主に帰属する 当期純利益	△0	29	△29

- ▶ 弊社グループの連結決算では、営業収益は前期比38.4%増、営業費用は同39.3%増。主な要因は、横浜環状北西線、横浜環状北線(馬場出入口)、小松川JCT、渋谷入口(下り)等(1,819億円)の完成、引渡があったことによるもの。
- ▶ 親会社株主に帰属する当期純利益は△0億円。新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う外出自粛要請の影響等による料金収入の減少等によるもの。

(注) 端数処理の関係で計が合わないことがあります。

# 高速道路事業の損益状況（連結）

（単位：億円）

	R2/3期	H31/3期	増減
<b>営業収益</b>	<b>4,983</b>	<b>3,437</b>	<b>1,545</b>
内：料金収入	2,635	2,686	△51
内：道路資産完成高	2,345	748	1,597
<b>営業費用</b>	<b>4,977</b>	<b>3,410</b>	<b>1,566</b>
内：道路資産賃借料	1,901	1,937	△35
内：道路資産完成原価	2,345	748	1,597
内：管理費用等	729	724	5
<b>営業利益</b>	<b>5</b>	<b>26</b>	<b>△20</b>

- 料金収入は、秋季の台風等の天候の影響、新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う外出自粛要請の影響等により前期比1.9%減。特に3月の影響が大きく前期比10.3%減。  
なお、交通量は対前期比1.3%減、100.1万台/日。新型コロナウイルスの影響が出た3月は前期比10.0%減。
- 道路資産完成高は、建設事業、改築事業及び修繕事業等の引渡しを実施し、前期比213.3%増。  
なお、営業費用において、道路資産完成高と同額の道路資産完成原価を計上しているため、損益に与える影響は無し。
- 道路資産賃借料は高速道路機構との協定に定める道路資産賃借料の減少、及び変動貸付料制度の適用があったことによる減少により前期比1.8%減。
- 上記の結果、高速道路事業の営業利益は5億円。

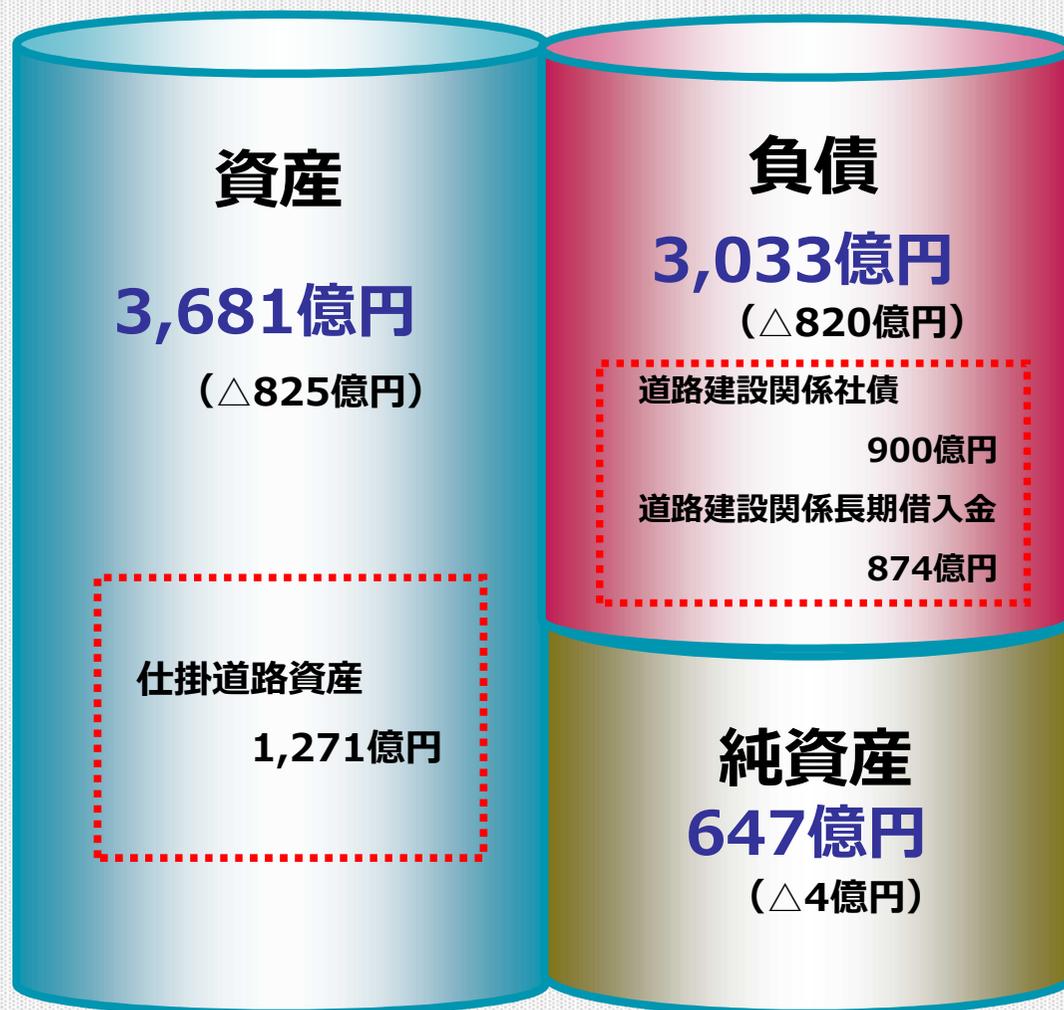
# 関連事業の損益状況（連結）

（単位：億円）

	R2/3期	H31/3期	増減
<b>営業収益</b>	<b>369</b>	<b>431</b>	<b>△61</b>
<b>駐車場事業</b>	<b>31</b>	<b>32</b>	<b>△0</b>
<b>受託事業</b>	<b>289</b>	<b>359</b>	<b>△70</b>
<b>その他の事業</b>	<b>48</b>	<b>38</b>	<b>9</b>
<b>営業費用</b>	<b>356</b>	<b>419</b>	<b>△62</b>
<b>内：受託事業</b>	<b>284</b>	<b>359</b>	<b>△75</b>
<b>営業利益</b>	<b>13</b>	<b>12</b>	<b>1</b>

- 駐車場事業は、主に都市計画駐車場（5箇所）と高架下等駐車場（64箇所）を運営しており、営業収益は前期比1.6%減とほぼ前期並み。
- 受託事業は、横浜環状北西線のシールドトンネル工事協定の出来高が減少したこと等により、営業収益は前期比19.6%減、営業費用は同20.9%減。
- その他事業は、休憩所施設及び高架下賃貸施設の運営・管理等を行っており、営業収益は前期比24.2%増。
- 関連事業全体の営業利益は前期比8.8%増の13億円。

# 連結財政状態



( ) 内は平成31年3月末からの増減

(注) 億単位未満切り捨てのため、図表の貸借の数値が一致していません。

- 資産の部は、仕掛道路資産について、特定更新等工事などの進捗による増加があった一方、横浜環状北西線、横浜環状北線(馬場出入口)、小松川JCT、渋谷入口(下り)等の工事完成に伴う高速道路機構への資産引渡しによる減などにより、825億の減となり、その結果、資産残高は3,681億円。
- 負債の部は、新規路線建設の資金調達による増、高速道路機構への債務引渡しによる減により、負債残高は3,033億円。

# 単体決算の概要

(単位：億円)

	R2/3期	H31/3期	増減
営業収益	5,296	3,818	1,477
高速道路事業	4,983	3,437	1,545
関連事業	313	381	△68
営業費用	5,305	3,805	1,499
高速道路事業	4,995	3,428	1,567
関連事業	309	377	△67
営業利益	△8	13	△21
高速道路事業	△12	8	△21
関連事業	3	4	△0
経常利益	△3	19	△22
税引前当期純利益	△4	20	△25
法人税等	8	4	3
当期純利益	△12	15	△28

# 第16期（令和3年3月期） 連結業績見通し

令和3年3月期の連結業績予想につきましては、新型コロナウイルス感染症の影響により、今後の収入動向等が極めて不透明であることから、現時点では未定とさせていただきます。

# 【参考】令和2年2月以降の料金収入及び休憩施設の売上状況

## 通行台数データ（1日平均）

（単位：台/日）

	2020年	2019年	増減比
2月	985,739	997,626	△1.2%
3月	946,629	1,051,928	△10.0%
4月	719,169	1,016,327	△29.2%

## 料金収入

（単位：億円）

	2020年	2019年	増減比
2月	205	200	2.7%
3月	210	234	△10.3%
4月	158	220	△28.2%

## 休憩施設売上

（単位：百万円）

	2020年	2019年	増減比
2月	92	145	△36.9%
3月	119	183	△34.9%
4月	88	169	△48.3%

- 新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う外出自粛要請の影響により、2020年2月以降の首都高速道路の通行台数は徐々に減少し、3月は前期比10.0%減、4月は29.2%減。
- 通行台数の大幅な減少に伴い、料金収入も影響を受け、3月は前期比10.3%減、4月は28.2%減。
- 休憩施設における売上も同様に影響を受け、3月は前期比34.9%減、4月は48.3%減。

（注）休憩施設における売上は、当社グループの収益とは異なる。また、PAリニューアル工事に伴う休業の影響を一部含む。

## 【参考】令和2年度の道路の適切な維持管理について

# 道路の適切な維持管理 ～安全・安心・快適への取り組み～

- 道路を安全な状態に保つため、きめ細かな点検、監視、維持、補修・補強を実施
- 橋梁、トンネル、附属物は、省令に基づく接近点検を実施
- 交通情報を把握する的確な監視、計画的な維持や補修・補強で、お客さまに安全で安心な首都高を提供

## 1 点検



高所作業車による構造物接近点検



高精細カメラによる構造物点検

## 2 監視



施設管制室での監視



CCTVによる車両状況監視

## 3 維持・補修・補強



止水板（イメージ写真）等による滞水対策



支承取換えと落橋防止構造等による耐震補強

# お問い合わせ先

首都高速道路株式会社 財務部 決算課 TEL : 03-3539-9297 (直通)  
〈URL〉 <http://www.shutoko.co.jp/>